

院内ハンズオンエコーの現状

◎竹村 利恵¹⁾、西本 佳那¹⁾、宮田 綾子¹⁾、山口 敬子¹⁾、中田 恵美子¹⁾、岡山 幸成¹⁾、胡内 久美子¹⁾、中村 文彦¹⁾
地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター¹⁾

当院は、研修医教育施設であり、また救急外来では医師が超音波検査を施行している。我々は、2012年度より初心者向けのハンズオンエコーを技師が指導者となって、年5~6回のペースで実施してきたので、問題点とその効果を報告する。

【対象】院内の職員

【参加者】主に研修医 医師・レジデント・看護師・リハビリ技師・薬剤師・放射線技師・検査技師など

【募集方法】院内メール

【開催日時】不定水曜日 18:00~19:00

【内容】心臓・腹部・血管のエコーのハンズオン

年度初めの2回は『基本断面の描出ができるようになる』を目標として行っている。その後、参加者のレベルに合わせて、内容を検討し、少しでも参加者の手技のレベルアップができるように工夫している。

過去、特別内容として、造影エコー・腹部のナビゲーションシステム・穿刺吸引の方法・神経エコー・報告書の解釈

の仕方や失禁予防・嚥下予防・褥瘡予防のため、ポータブル用エコーを使って血管・筋肉・皮膚構造を理解するなどを実施した。

【問題点】後半の回になると、参加申し込みしていても、参加できない人が増え、出席率が悪くなる。救急外来での現場の状況を知らないので、指導内容が本当に役立っているのかわからない。

【考察】参加者と一緒に切磋琢磨しながら学ぶことができた。研修医教育施設として、研修医の育成に貢献することができた。他職種の方と話せるきっかけとなり、コミュニケーションがとりやすくなった。

今までは、エコー検査について、検査技師としての解釈だったが、他職種と交わることにより、多角的に検査の利用価値を知ることができた。

【結語】今後、参加者のアンケートを踏まえ、さらなる発展に努めていく。